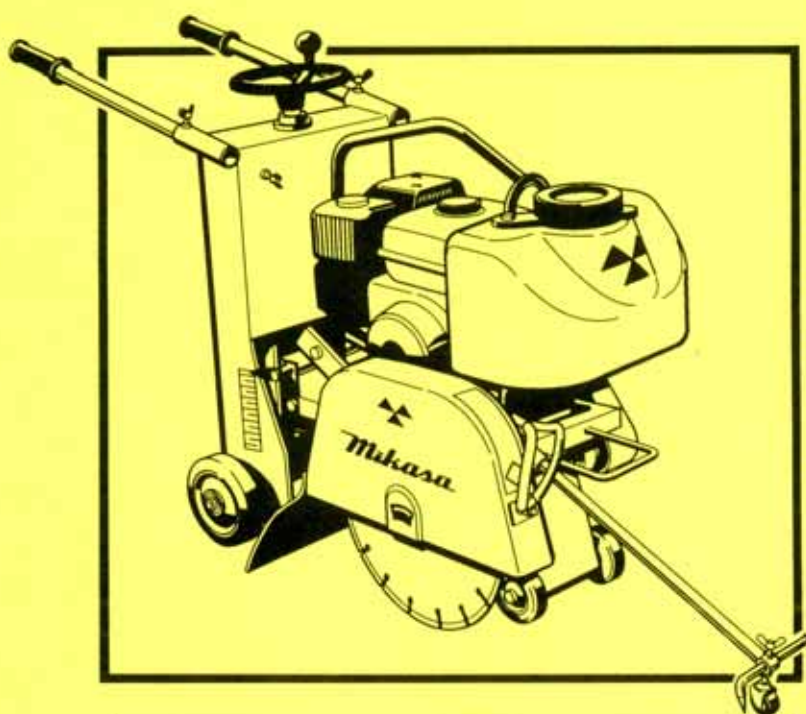


Mikasa


コンクリートカッター

MCD-114

取扱説明書



三笠コンクリートカッターをお買い上げいただき
ありがとうございます。
当製品を安全に正しくお使いいただくために必ず
本取扱説明書をお読みください。お読みになった
後も必ず保管してください。

 三笠産業株式会社

601-01701

仕 様

本体仕様

型 式	MCD-114
全 長 (格納時)	985mm
全 幅	500mm
全 高	845mm
使用ブレード寸法	14" (356mm)
ブレードの穴径	27mm
最大切断深サ	120mm
切断深度調節	手動スクリュー方式
ブレード冷却方式	重力注水飛散方式
水タンク容量	14 ℓ
エンジンセット回転数	3,600r.p.m.
使用ベルト寸法	A-27 (2本)
乾燥重量	79.5kg
装備重量	98.5kg (14"ブレード付)

ギョウキの場合

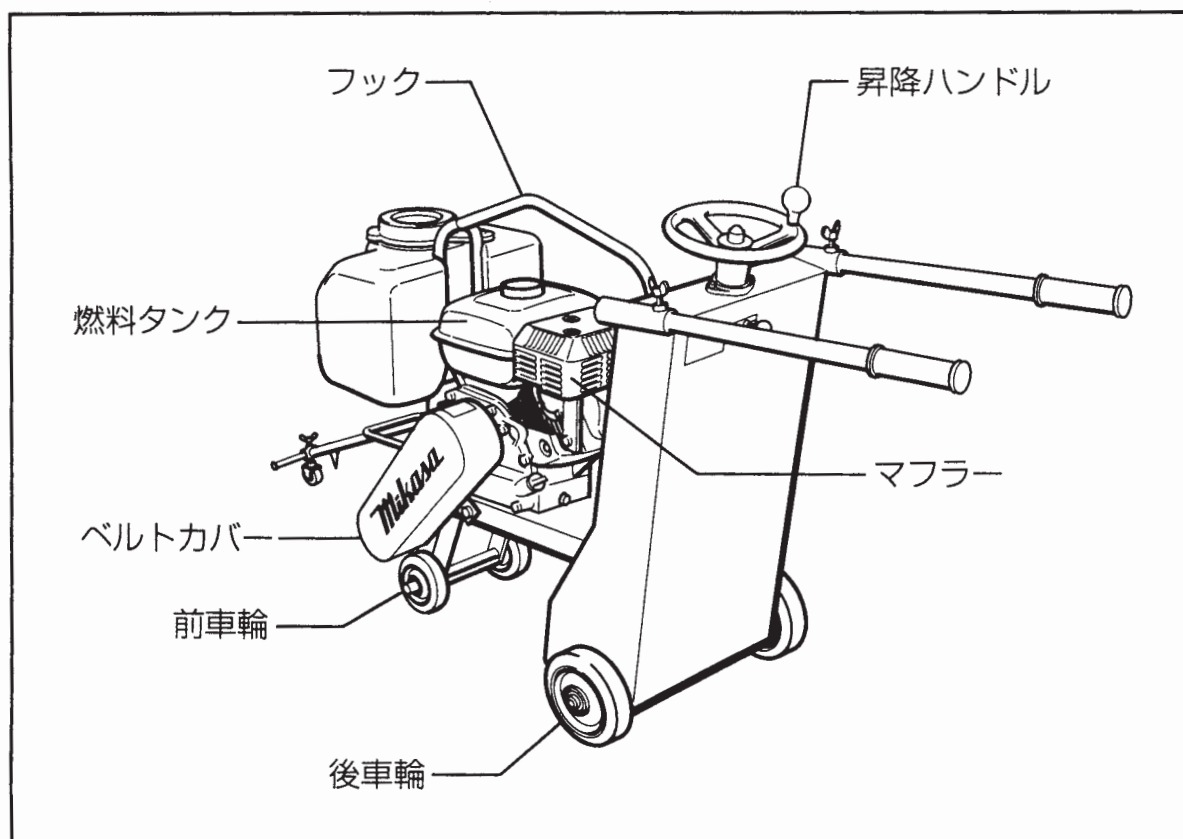
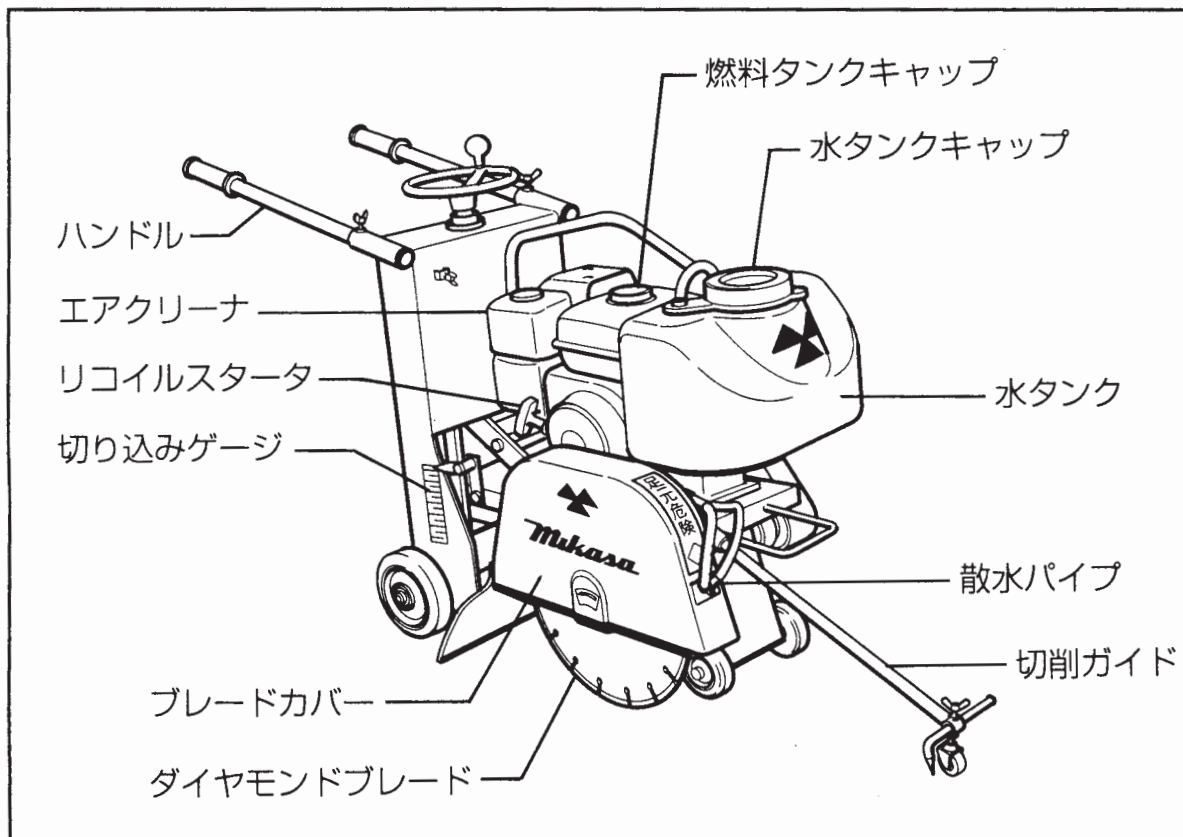
エンジン仕様

名 称	ホンダ GX200
型 式	空冷4サイクル傾斜形ガソリンエンジン (OHV)
総排気量	196cc
最大出力	6.5ps / 3,600r.p.m.
使用燃料	自動車用ガソリン
燃料タンク容量	3.6 ℓ
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル (0.6 ℓ) SAE#20~#30 (寒冷地#10W-30)
始動方式	リコイル式

(本仕様は予告なく変更することがあります。)

※ 部品、パーツリストおよび修理に関しては販売店もしくは三笠部品サービスセンターに御問い合わせください。

各部の名称



安全に作業をしていただくために

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの ⚠ マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

⚠ 危険

指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合

⚠ 警告

指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合

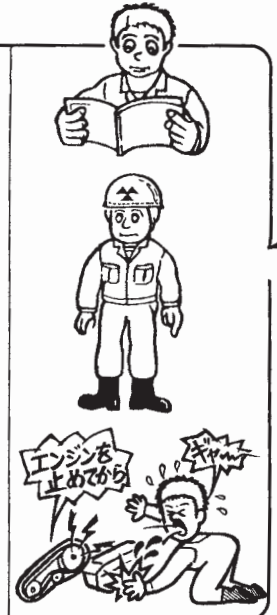
⚠ 注意

指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合

ご使用前は

⚠ 注意

- 取扱説明書をよくお読みいただき正しい取扱いで安全に作業をしてください。取扱い知識の不十分な人には使わせないでください。
- エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 作業するときは防護具（ヘルメット、保護靴等）を着用し、適切な作業服で作業してください。
- ダイヤモンドブレードにひび割れなどの異常がないことを確認してください。
- 機械各部の点検を行い、ネジ類のゆるみや異常箇所がないか確認してください。
- 整備する場合はエンジンを停止してから行ってください。
- 貼付け銘板が読みにくくなった場合は新しい銘板に貼り変えてください。
- 幼児等が触れると危険です。保管方法、保管場所には十分注意してください。



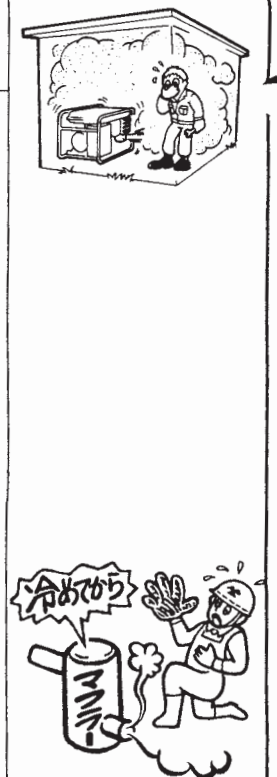
ご使用中は

⚠ 危険

- エンジンの排気ガスには有害な一酸化炭素等が含まれており危険です。室内トンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。

⚠ 注意

- 機械を始動したり作業するときは周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- ブレードカバーは必ず装着してご使用ください。
- エンジン始動と同時にブレードが回転しますので十分に気を付けてください。特に足等を近付けないでください。
- 回転部（ベルトカバー内等）には手、服等巻き込まれない様に十分注意してください。
- 常に足場に注意し機械のバランスが保てる無理のない安定した姿勢で作業してください。
- 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。
- 作業中は前方に人を絶対に立たせないでください。
- エンジン本体、マフラーは高温になりますので熱い時は触れないよう注意してください。
- 機械から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。また機械を移動する場合もエンジンを停止してください。



燃料給油について

▲ 危険

- 燃料を給油するときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから入れてください。
- 燃料補給中は火気を絶対に近付けてはいけません。(特にタバコは吸わない)
- 燃料はこぼさないように注意してください。もし、こぼれたら良く拭き取ってください。また、燃料タンクの口元一杯まで入れ過ぎると、こぼれる可能性があります。危険です。



運搬に関して

▲ 警告

- 運搬時エンジンを停止してください。
- 運搬時は燃料タンクのキャップが外れないようにしっかり締め、燃料コックは閉じ、燃料がこぼれないようにしてください。
- 長距離、悪路の運搬時は燃料を抜いてください。
- 機械が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定してください。

1. 運転の前に

1-1 エンジンオイル (図-1)

エンジンを水平にして、オイルゲージにてオイルを点検してください。不足の場合は適時、注入口より補給してください。オイルは下記のものを使用してください。(出荷時には 10W-30)

- ・SAE#30 通常気温の場合
 - ・SAE#20 気温 10℃以下の場合
 - ・SAE10W-30 一年中気温に関係なく使用できます。(気温-20℃まで)
- (但し、通常気温で使用の場合、オイルの消費が増す傾向がありますので、日常の点検にご注意ください。)

オイルの品質はSC級以上のものをご使用ください。エンジンオイルの質および量を低下させると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。

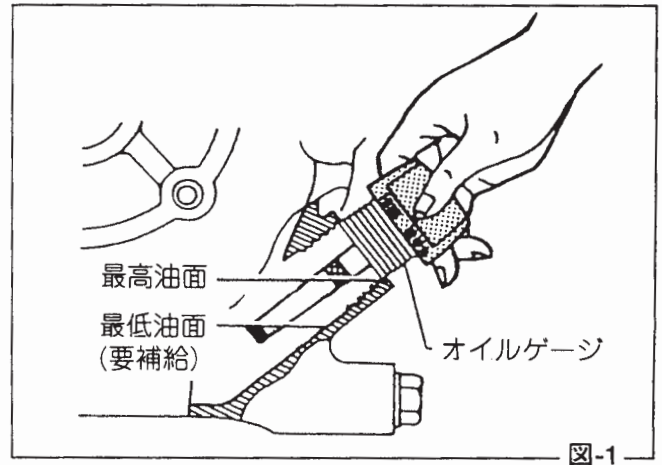


図-1

注意

本機はオイルアラート付です。エンジンオイルが不足するとエンジンが自動的に停止します。エンジンが始動できない時は、エンジンオイル量を点検してください。

1-2 燃料

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。燃料補給は、エンジンを必ず停止して、注入口に装着してある燃料コシ網を使用してください。また、外へこぼれたらきれいにふき取ってください。

1-3 V-ベルト

Vベルトのゆるみ及び損傷を点検してください。

張り具合は両軸の中間部を強く押して10mm 位たわむように張ってあれば正常です。張りが不足している場合は張り直し、交換する場合は2本共に取換えてください。交換品の使用可能なものは補充部品としてご使用ください。ベルト調整方法は、エンジンを前後にスライドさせて調整します。

ベルト調整方法

- ボルト3本を取り、ベルトカバーを外す。(図-2)
- エンジンを取付けているボルト4本をゆるめて、Vベルトを外します。
- エンジンを前後にスライドさせベルト張力を調整します。

注意

エンジン取付ボルトはゆるめるだけで外さないでください。

注意

エンジンプーリーとブレードプーリーの平行度(同一線上)に注意して組付けます。(図-3)

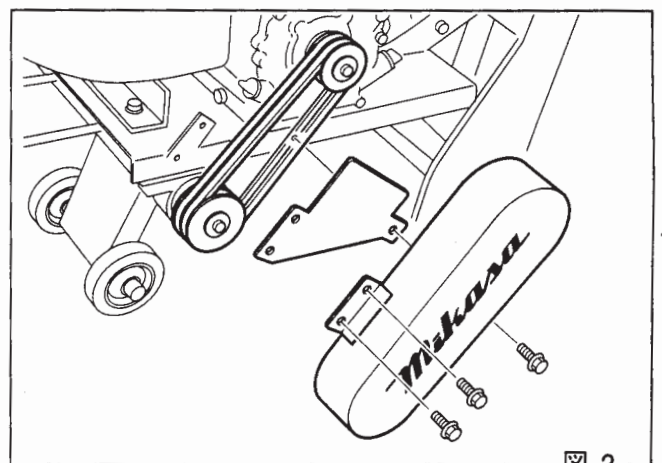


図-2

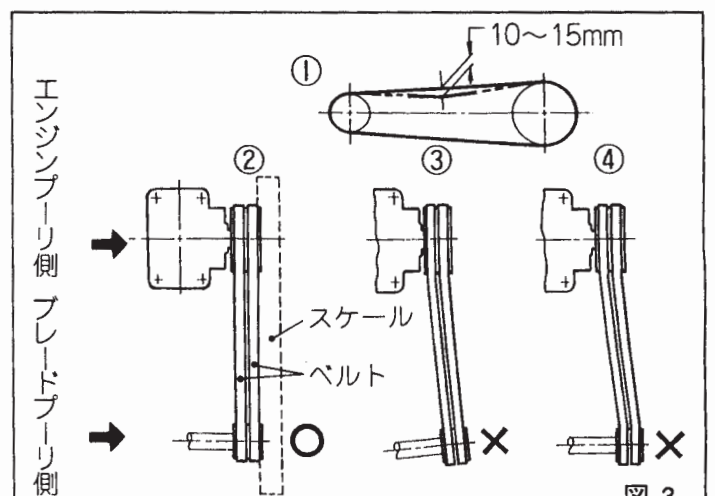


図-3

1-4 水タンク

水タンクは十分に水を入れてご使用ください。
ブレードの寿命は冷却水の分量によって大きく影響を受けますので、水が不足しないように注意してください。(容量は13ℓ)(図-4)

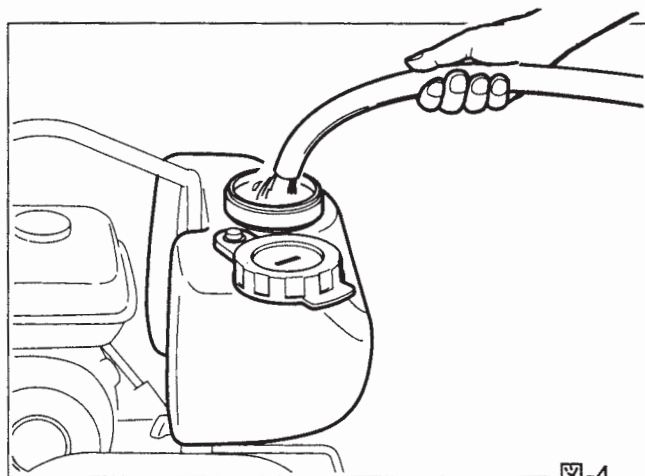


図-4

1-5 散水パイプ

散水コックを開き、水を通して散水パイプがつまっていないことを確認してください。(図-5)

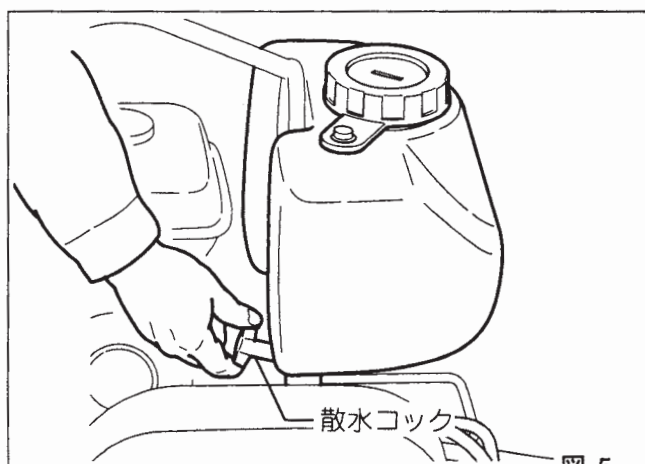


図-5

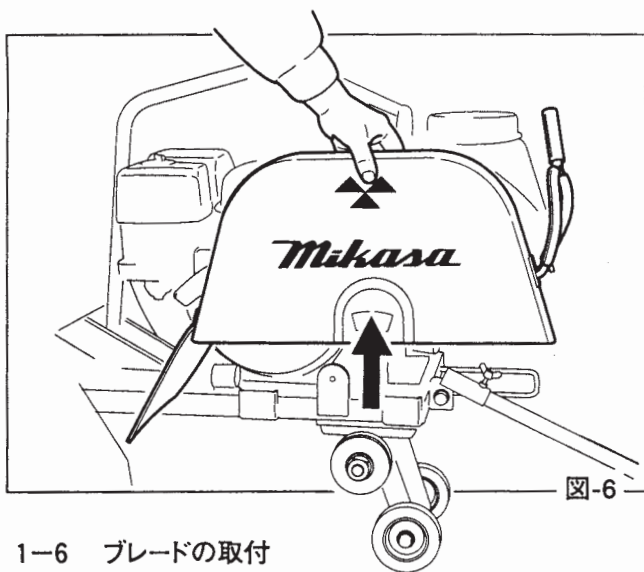


図-6

1-6 ブレードの取付

- a. 水タンク下のニップルから水ホースをはずし、ブレードカバー裏側のチョウネジをゆるめて、ブレードカバーを上へ持ち上げ外します。(図-6)
- b. ブレードシャフトにフランジ(内)、ダイヤモンドブレード、フランジ(外)の順に入れ、ワッシャを付けてナット(左ネジ)で十分締付けてください。(図-7)

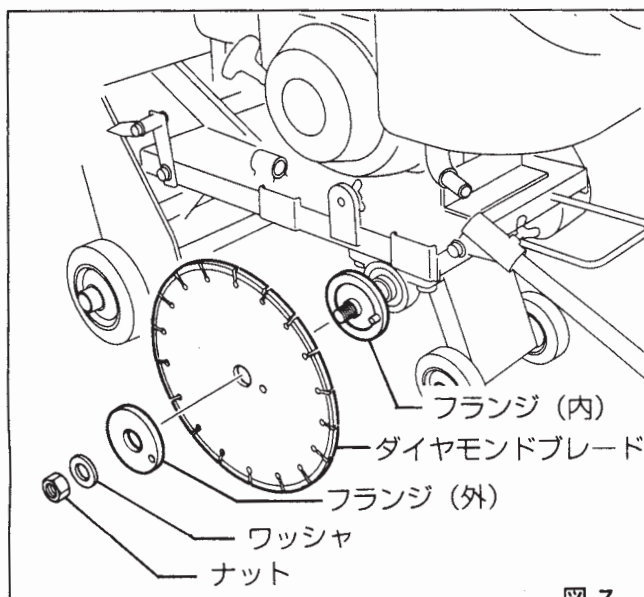


図-7

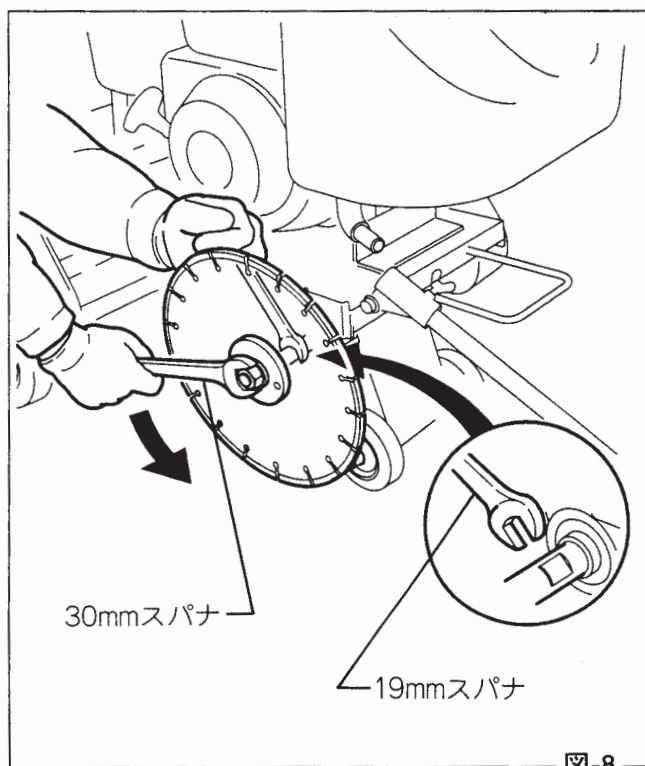


図-8

注意

ブレードシャフトのスパナ掛け部にスパナを掛けてブレードシャフトを固定して、ナットをスパナで反時計方向に回して締付けます。(図-8)

- c. ブレードカバー裏側のステーをベースの取付溝に差し込み、チョウネジでしっかり固定して、はずしておいた水ホースを水タンク下のニップルにしっかり差し込んでください。(図-9)

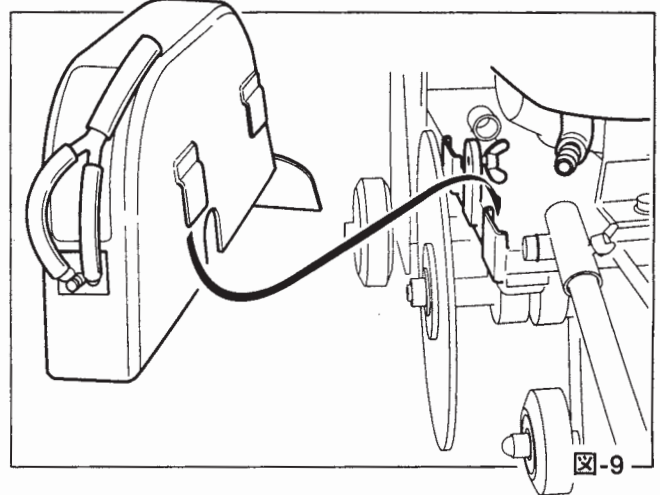


図-9

1-7 機体の昇降方法

機体を下げる(切り込み)時は、昇降ハンドルを時計(左)方向に回します。
機体を上げる時は、昇降ハンドルを時計(右)方向に回します。(図-10)

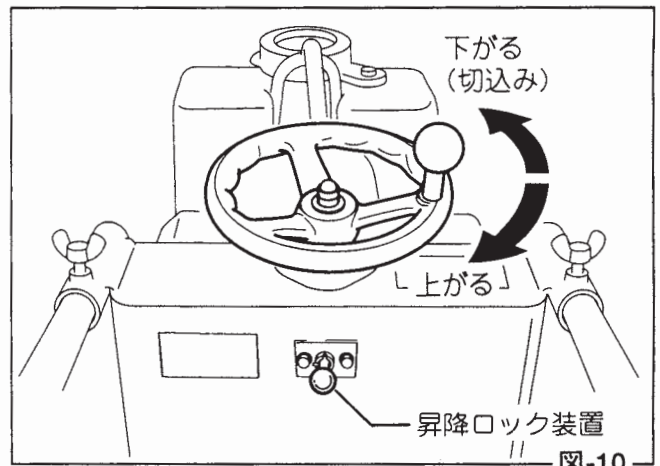


図-10

1-8 昇降ロック装置(図-10)

切削時、所定深さまで切り込んだら昇降ロック装置のツマミを引き90°回転させピンを深い溝にセットすると機体の上下がロックされます。
機体を上げる時はロックを解除(ピンを浅い溝にセット)してください。

- 1-9 各操作ハンドルを動かし、きしみ・ガタ等が無い点検してください。

- 1-10 ボルト、ナットのゆるみや異常ながたつき等が無い点検してください。

1-11 ストッパーボルトの調整(図-11)

機体下降時の下限深さをストッパーボルトで調整しています。通常は調整する必要はありませんが、昇降リンクにセットされているストッパーボルトのネジ込み深さで調整できます。

(工場出荷時はブレードフランジと路面のスキマが約10~13mmにセットされています。)

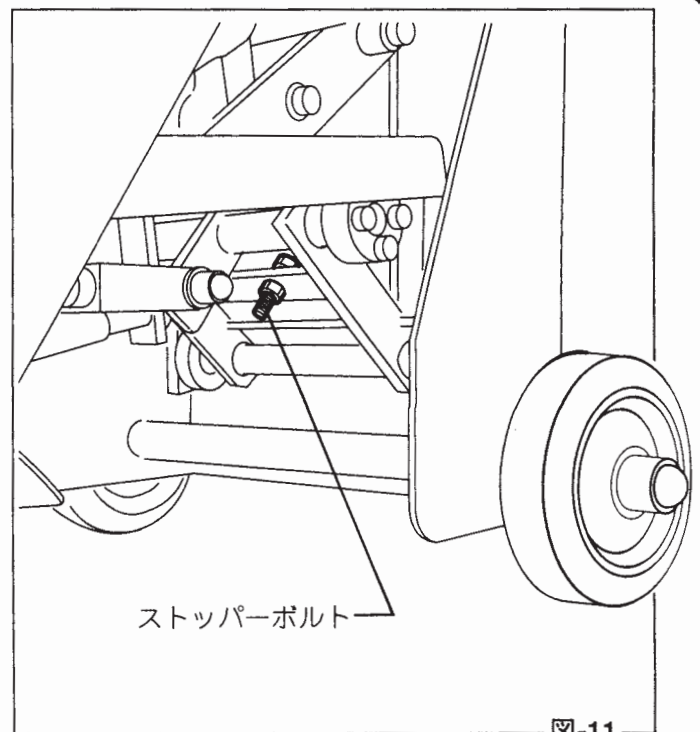


図-11

2. 始 動

2-1 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。
(図-12)

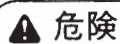
2-2 寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを“始動”の位置に合わせます。
エンジンが暖まっているときは操作不要です。
(図-13)

2-3 エンジン回転調整レバーを高速側に少し動かします。
(図-14)

2-4 エンジンスイッチを“ON” (運転)の位置にします。
(図-15)

2-5 リコイルスタータの始動グリップを握り、少し引くと軽く手応えがあります。其処から勢いよく引張ってください。
この時、ロープをあまり引張り過ぎますと、ロープを引抜くおそれがありますからご注意ください。また始動グリップは引いたまま離さないでスターターケース近くまで戻して手を離してください。(図-15)

2-6 エンジンが始動したなら、爆発音を聞きながらチョークレバーを戻し全開(運転)にします。(図-16)
始動後は必ず2~3分間低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。この間にガス洩れ異常音がないか注意してください。



危険

エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、接触しない様、十分に注意してください。

燃料コック

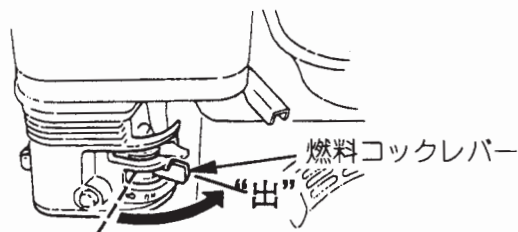


図-12

チョーク

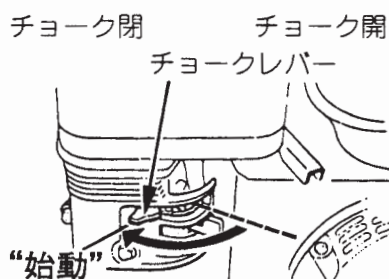


図-13

エンジン回転調整レバー

・エンジン回転調整レバーを矢印の方向に少し動かします。

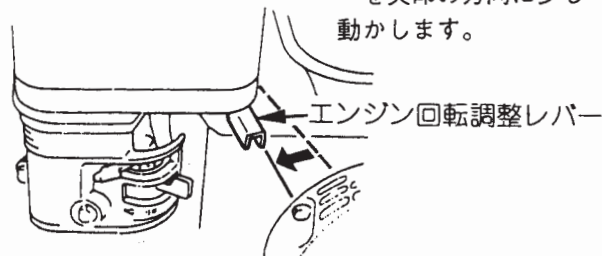


図-14

“ON” エンジン スイッチ

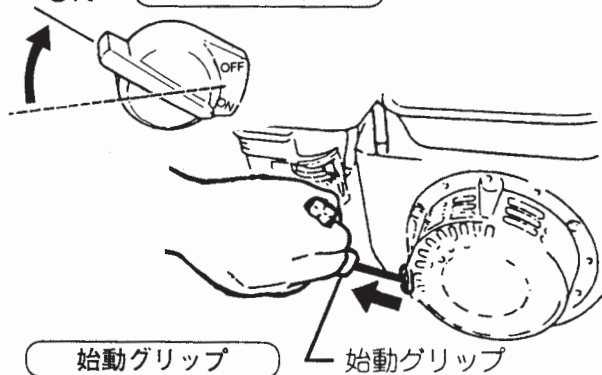


図-15

チョーク

・チョークレバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。

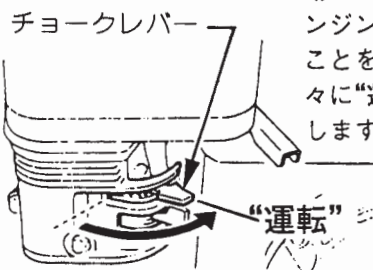


図-16

3. 作業

- 3-1 切削ガイドをブレードと同一線上になるようセットして、切削ガイドとブレードを切断線に合わせます。(図-17)
- 3-2 水タンクの散水コックを開き、ブレードに冷却水を噴射させてください。(図-18)
- 3-3 エンジン回転調整レバーを徐々に開き、エンジン回転数を高速にセットします。(図-14)
- 3-4 昇降ハンドルを反時計(左)方向にゆっくり回してブレードが切削面に接触した所で、右後方(操作者側から見て)にある切り込みゲージを確認し、ゆっくりと希望する深さまでブレードを切り込ませてください。(図-19、20)
切断深さまで切り込んだら昇降ロック装置のつまみを引き回転させピンを深い溝にセットしロックしてください。
- 3-5 エンジン音を聞きながらゆっくりと機体を押し切削してください。

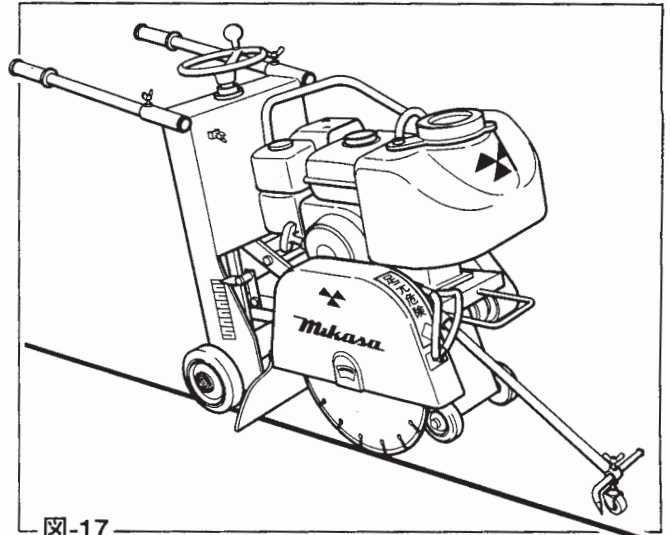


図-17



注意

急激な切り込み・切削はブレードの破損やエンジン・Vベルト等の耐久性を損なう恐れがあります。

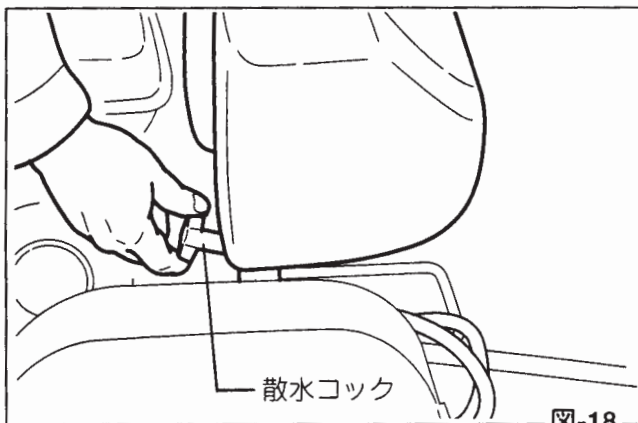


図-18

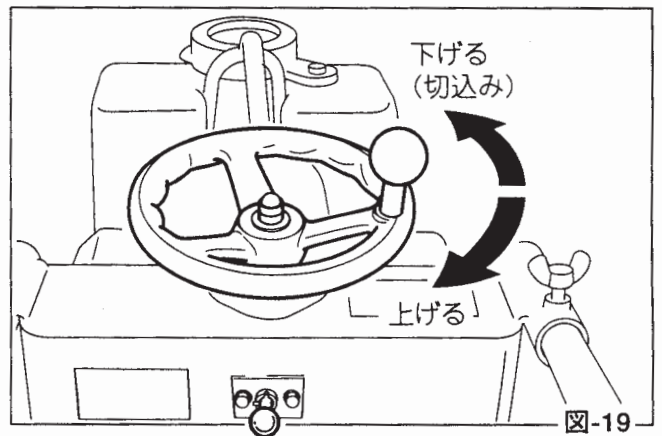


図-19

4. 停止

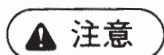
- 4-1 切削が終了したら、昇降ロック装置のつまみを引き回転させピンを浅い溝にセットしてロックを解除し昇降ハンドルを時計(右)方向にゆっくり回して機体を上げてください。
- 4-2 水コックを閉じて冷却水を止めてください。
- 4-3 エンジン回転調整レバーを戻してエンジン回転数を下げて2~3分間程エンジンを回してエンジンの温度が下がってから、エンジンスイッチをOFF(停止)側にまわしてください。

- 4-4 燃料コックを閉じます。



注意

切削直後は機体各部が高温になっているので火傷等に十分注意してください。



注意

スロットルレバーの操作時、マフラーは高温になっているので接触しない様に十分注意してください。

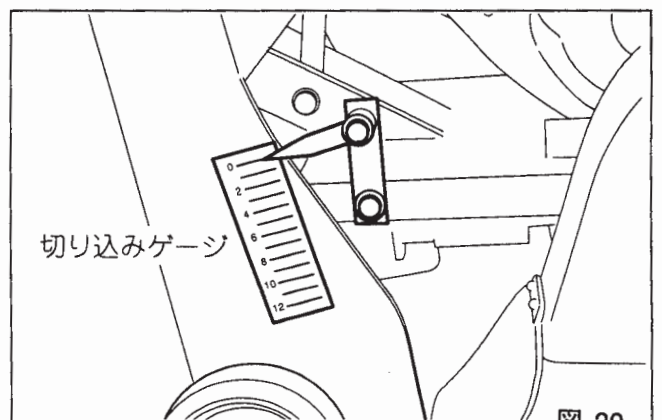


図-20

5. 輸 送

- 5-1 積込み・積卸し・移動(切削時は除く)作業は必ずエンジンを停止し、ブレードを外してから行ってください。
- 5-2 機体を吊り上げる時は、フック部にクラック等破損していない事を確認してから、一点吊フックを利用してください。
- 5-3 機体の積卸しはゆっくり行ってください。急激な作業は機体破損の恐れがあります。
- 5-4 運搬時は燃料タンクのキャップが外れないようしっかり締め、燃料コックを閉じ燃料がこぼれないようにしてください。
長距離、悪路での運搬時は燃料を抜いてください。
- 5-5 輸送中、動いたり倒れたりしない様、輸送車に機体をロープ等でしっかり固定してください。

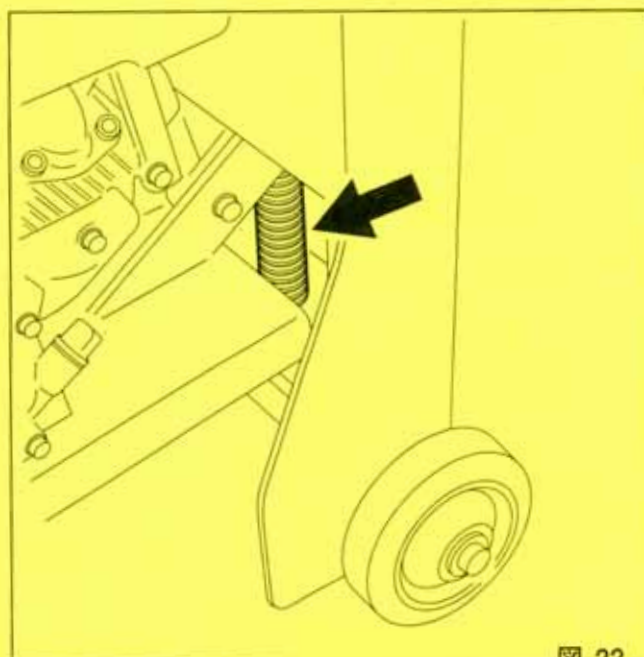
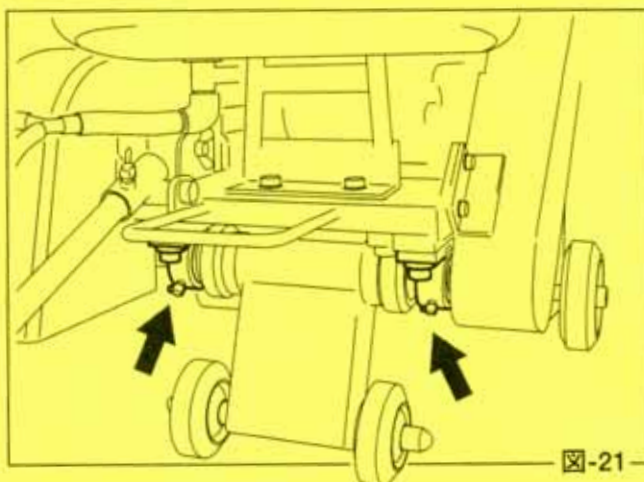
⚠ 注意

万一の落下に備え、吊り上げ作業時は機体の下に人や動物が入らないようにしてください。また、必要以上の高さに吊り上げないでください。

クレーンによる積卸し作業は資格が必要です。クレーンの運転、玉掛け作業の資格のある人が行ってください。

6. 手入れと保存

- 6-1 各所のモルタルおよび水による汚れは、きれいに掃除してください。
特にブレードシャフトのブレード取付け部には掃除後に油を付けておいてください。
また、締付け部分のゆるみは増締めしてください。
本体の点検を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 6-2 ブレードシャフトのピローブロックに使用后、グリスガンで2~3回グリスアップしてください。
また、昇降スクリューのネジ部にもグリスを給脂してください。(図-21,22)
- 6-3 作業終了後、水タンク、配管内の水は抜いてください。
- 6-4 燃料ホースは2年ごとに新しい物と交換してください。
- 6-5 正しい保存法
工事が終わって長期間保存する場合は
①燃料タンク、燃料パイプ、気化器の燃料を抜きとる。
②点火栓をはずしてエンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回して内部に充分ゆきわたらせる。
③リコイルスタータを引き圧縮のあるところで止めておく。
④直射日光のあたらない湿気やホコリのないところにカバーをかけて格納してください。
- 6-6 エンジン関係
エンジンの日常点検・定期点検および簡単な調整・整備については、別紙エンジン取扱説明書を参照してください。



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN